



File.12 10年先を視野に入れた事業承継

次代へ繋ぐ経営への思い 持続的な成長を目指す

日本の労働力の7割を占める中小企業。昨今、その経営トップの高齢化に伴い後継者問題が深刻化している。中小企業庁では、地域の事業を次世代にしっかりと引き継ぐとともに、事業承継をきっかけに後継者が新たな取組に積極的にチャレンジできる環境を整備するため、2021年までを事業承継支援の集中実施期間に定め、支援に力を入れている。

今回は、三実(位)一体を経営理念に掲げ、人と人とのつながりを大切にする(株)赤田運輸産業を取材した。



赤田 博文氏
代表取締役会長
1954年9月生まれ

口を出さないで
全てを任せる

赤田 健氏
代表取締役社長
1983年12月生まれ

常にお客様が求める
サービスを提供

創業の経緯

会長 昭和36年に父が笠岡市生江浜で運輸会社を創業。主に、鋳物で使う粘土を製鉄所に運んでいた。私は航空自衛官として働いていたが、兄が会社を承継しないということで父に呼び戻され入社。トラック運転手として荷物を運んでいた。40歳で承継したが、その生活は変わらず、自らトラックを運転して全国を飛び回っていた。

顧客のニーズに応えたくて、土地を

購入し、大きなサイズのトラックを増やすことで業容を拡大し、信頼を得ていった。

事業承継の経緯

会長 社長が子どもの頃には、トラックに乗せて遊ばせ、ドライバー達と接する機会を増やした。そして「将来は後を継いでくれよ」と事あるごとに言っていた。

社長 そのことは全く覚えていない。若いころは継ぐつもりはなく、自分が

好きなことをしたいと思っていた。

東京で家具の営業マンとして働いていたが、継続して働くことの不安もあった。家業のことや、年齢的にこれから部下を持つと辞めづらくなってしまうのではないかと。自分の思いや家業のことを勤務先の社長に相談し、退職を決めた。

岡山に帰ってから最初の2年間は、他社で配送業務を経験し、トラックの乗り方や荷物の扱い方を勉強させてもらった。

会長 私の長期入院がきっかけで、2010年9月に社長が入社した。私が入院していることで従業員も不安だったと思うが、社長が入社してくれたことで安心したのではないだろうか。

社長 入社後は、とにかく目の前のことをこなしていくだけで、何も分かっていなかった。他の従業員と同じようにトラックに乗り、配送の仕事も経験した。その中で、本当に厳しい業界だなというのが分かった。

運賃の決め方、運送業界に対する社会的な評価など、自分たちの意思で決められないことが多かった。また、昼夜問わず事故があれば連絡が入り、常に緊張状態に置かれ、気が休まることがなかった。

問題点は見つかるのに、解決策が浮



かばない。焦りと不安と疑問ばかりが渦巻き、正直苦しかった。「何とかこの状況を変えたい」と思っていた。

社外では商工会議所青年部や中小企業家同友会に入って、人との付き合いを大事にし、財団の後継者育成塾も受講して経営の勉強をした。約9年間いろんな経験をし、2019年6月に社長に就いた。

問題提起して解決へつなげる。専務時代から行動していたことは、承継するうえでも経験値になった。

会長 2018年頃から承継の時期を考えていたが、社長から「家業を継ぎたい」という申し出があった時に、これで任せて大丈夫と安堵した。

事業のこだわり

社長 当社の強みは、長尺物や重量物を小口で配送する「メタル便」という混載事業で、全国9拠点に物流網を構築している。「メタル便」という名称の通り、もとは鋼材を配送していたが、現在



あらゆるニーズに応えられるよう、社員一同、一致団結して取り組む



路線便での出荷が難しいとされる荷物に対応する「平ボデー車」

では木材、石材、建築資材等さまざまな物を取り扱っている。

この事業は、縁があった資本関係のない各地域の中小運送会社が、「物流交通網を創る」という志を持ち、会社の枠を超えて提供する、広域連携サービスです。枠を超えることで、一社では応えることが難しい案件も、連携により最適な提案ができるようになりました。

全国にハブを構え、幹線輸送で各拠点を結び、各エリアへの長距離輸送を可能にし、合理的な配送サービスを行っています。

一人のドライバーが夜通しで長距離運転をすることが少なくなり、働き方の改革にもつながっています。

会長 トラックで全国を回った際には、お客様との出会いや同業者とのネットワークを大事にした。苦しい時には助けをもらい、協力してもらった。「仲間作り、環境作りが大切」という思いが、今に繋がっている。

社長に就任しての思い

社長 運送という仕事を通じて、たくさんの人とのネットワークを構築していきたい。当社を支えているのは「人と人のつながりだ」と言っても過言ではない。

そのためにも、お客様から信頼され、何でも相談される会社になりたい。会

10年先を視野に入れた事業承継



本社倉庫

社を大きくするというより、ネットワークを活用しながら、顧客ニーズに対応し、全国のハブ拠点となる会社を目指している。会長が大切にしてきた「仲間作り」に尽きると思っている。

経営者だけが仲間を作るのではなく、従業員全員も仲間として、幸せになれる会社を作っていきたい。

これから承継に取り組む企業へ

会長 承継したからには任せることが大切と考えている。相談には乗るが、反対はしない。社長が本気で考えたことは、信じて応援するだけ。

私が社長になったときには、経営について父と口論ばかりしていた。それが嫌でしょうがなかった。そういう思いを息子にはしてほしくないです。

社長 会社を継ぐと決めた後継者である以上、不満や愚痴を言うのではなく、逆に「楽しむ」という気持ちを持ち続け、「俺がやる」と公言してもらいたいですね。

